

第 19 回京都市元離宮二条城保存整備委員会

議事録

1 日時

令和元年 11 月 13 日（水）午前 10 時～午前 11 時 25 分

2 場所

二条城 大休憩所レクチャールーム

3 出席者

(1) 委員

尼崎委員（座長／記念物部会長）、斎藤委員（副座長／建造物部会長）、岩崎委員、根立委員、村上委員（障壁画部会長）

(2) オブザーバー

京都府教育委員会文化財保護課 鶴岡建造物担当課長

(3) 事務局

ア 京都市 元離宮二条城事務所

北村所長，山口副所長，大西アドバイザー，鳥居課長，大森担当課長，来本担当課長，奥田補佐，近藤係長，中谷係長，松村技師，松本学芸員，中西技師，岡村技師

イ 京都市 文化芸術都市推進室

西山文化財担当部長，藤田課長，中川課長，高瀬係長，堀係長

4 次第

(1) <報告>令和元年度第 1 回建造物部会における審議について

報告(1) 本丸御殿保存修理工事にかかる工事進捗状況について

報告(2) 本丸御殿玄関ほか 2 棟 耐震補強方針案について

報告(3) 番所の耐震補強及び活用について

(2) <報告>令和元年度第 1 回記念物部会における審議について

議題(1) 城内通路の改良について

議題(2) 西南隅櫓通路整備工事について

議題(3) 番所の耐震補強について（建造物部会・報告(3)と同報）

報告(1) 二条城北西角石垣モニタリング調査について

報告(2) 第 2 駐車場の生垣（ピラカンサ）について

（経過報告）史跡旧二条離宮（二条城）保存活用計画検討ワーキンググループの進捗について

5 摘録（※敬称略）

次 第	内 容
開 会 (1) 令和元年度第 1 回建造物部会における審議について	(本丸御殿保存修理工事にかかる工事進捗状況について) 事務局： 国庫補助事業として平成 29 年度より着手した本丸御殿保存修理工事は 5 箇年のうち 3 年目で、玄関ほか 2 棟の保存修理工事は 4 箇年のうち 2 年目を迎え、平成 30 年度分を次年度に繰り越した。障壁画修理は 5 箇年のうち 3 年目となる。<u>別紙(1)：1 頁参照</u> (本丸御殿玄関ほか 2 棟 耐震補強方針案について) 事務局： 玄関ほか 2 棟の工事中、屋根葺材を外したところ、小屋組や柱等に平成 22 年度の基本設計では想定していない構造の違いや破損部分が新たに確認された。これに伴い、耐震補強案の精査が必要になった。 補強案については、調査、診断に係る方針をまとめ、補強素案を作成中である。部会での指摘事項を踏まえ、1 月末を目処に補強案を確定したい。<u>別紙(1)：4 頁参照</u> 委員： 耐震診断は、部材の接合の仕方、材種などを解析し、モデル化して行うもので、文化庁による一定の基準があるが、地震力の設定や構造設計業者によって解析方法は様々である。また過去の解析方法とも違ってきている。本来は複数の解析を試し、適切な案を選択するのが望ましいが、そうした発注体制はとれないのが現状だ。補強案については、建造物部会の委員に助言を得ながら再検討してほしい。 事務局： 次の部会（令和 2 年 1 月予定）には決める必要があるもので、御指摘の事項を踏まえて、早急に進めたい。 座長： 次の建造物部会で再検討案を諮るということで承知した。 (番所の耐震補強及び活用について) 事務局： 前回委員会での指導を受け、構造補強案を見直した。建物背面側に補強が偏る当初案から、建物正面開口部床下に仕口ダンパーを設置する補強に変更した。空調設備については、常設で一部建物の改造を要する当初案から、仮設的なスポットクーラーを設置する。<u>別紙(1)：11 頁参照</u>

(2) 令和元年度第1 回記念物部会におけ る審議について	委員： 当初案では、柱の多い建物後方に補強が偏り、地震の際に人を入れる予定の建物前方（庇部分）がふられる惧れがあった。また空調設備も既存建物への干渉部分が多かったが、是正されたようだ。 公開で常に人をいれる場合、建物に大がかりな補強が必要となれば、保存すべき価値ある材料、構造を損失または置換えざるを得ない。保存が無視されるような活用は避けるべきだ。 座長： 発注前の方針、条件整備などは、成案までに節々で確認に行い、必要なら保存整備委員会まで諮ること。 委員： 専門家を含め、修理や補強等の取り組みを共有するような情報ツールはないのか。 委員： 文化庁でそうした情報公開用のデータベースを作成している。特に書院造のような住宅系の保存修理では、既存建具を構造補強の一つに置き換えざるを得ない。補強の類例を共有できるよう、私からも働きかけているところだ。 座長： 文化財分野での技術的交流はいまだ閉鎖的なところがある。利用できる情報は上手に使えるとよい。 (城内通路の改良について) 事務局： 城内観覧通路のバリアフリー化を実施するにあたり、通路の改良に関する調査や検討を行う。昨年度は基礎調査（城内地下埋設管の情報整理）を終え、今年度は12月から3月にかけてレーダーを用いた詳細調査を行う予定である。次年度以降は、基本設計、実施設計、工事着手といったスケジュールを予定している。別紙(2)：1頁参照 座長： 今後の工程はどうなるか。 事務局： 今後の詳細調査を踏まえて、工法・やり方を検討し、部会に御諮りする予定だ。 (西南隅櫓通路整備工事について) 事務局： 西南隅櫓の特別公開に向けて、通路整備と周辺にアジサイ植栽を行う計画である。今年度12月から3月中旬までを予定し、建物周辺の樹木の整理、観覧通路からの通路整備等を行う。『元離宮二条城国宝・重要文化財（建造物）等の保存活用計画（以下、「保存活用計画（建造物）」という。）』
--	---

	(平成 29 年度 3 月策定) に則り、従来まで活用していなかった文化財建造物として、西南隅櫓を対象に、周辺景観も併せてきれいに整えることにより、来城者の文化財への関心を高めることが狙いである。<u>別紙(2)：5 頁参照</u> 座長： 西南隅櫓について、あじさいは四季の美しさということで植えるのか。 事務局： 城内では、晩秋から初冬にかけて季節を感じる植物が少ない。また西南隅櫓付近は鬱蒼としており、新たな魅力を出したいと考えている。 座長： 文化庁の浅野調査官から場所性を踏まえた上で整備を行うように指導があった。整備案は部会で諮るように。 事務局： 承知した。 (二条城北西隅石垣モニタリング調査について) 事務局： 継続中の石垣のモニタリングだが、観測精度を高めるため、新しい基準点を加えて経過観察を続ける予定だ。 <u>別紙(2)：9 頁参照</u> 座長： 分かった。別途、石垣全体の構造調査は今後の課題だ。 委員： 水面下の石垣の積み方等の構造調査はされているのか。または、松杭が打ってあった等の発見事項はあるか。 事務局： 北西第 2 駐車場の整備範囲のみ、石垣がずれていないか確認のため潜って撮影した。構造調査はしていない。松杭等も見つかっていない。 座長： これらの調査情報も、保存整備委員へ共有すること。 (第 2 駐車場の生垣について) 事務局： 第 2 駐車場の整備後、3 年が経過した現状と、今後の対応について報告した。バス駐車場が見えにくいように樹木高さ 4m を目指しているが、成長がまちまちで景観的によくないので、別の植物に変えることを含め検討中である。 <u>別紙(2)：13 頁参照</u> 座長： 史跡として、景観の問題があるのでは。途中で樹種に変えてもいいのか。 事務局： 地元住民より、きれいな植栽を求められたことが背景にある。現状から、植種を替えることも視野に入れざるを得ない。よりよい環境づくりができるよう、努めてまいりたい。
--	---

(史跡旧二条離宮(二条城)保存活用計画検討ワーキンググループの進捗について)

記念物部会の下に設置した史跡旧二条離宮(二条城)保存活用計画検討ワーキンググループ(以下、「検討WG」という。)は、主に今年度の第5回会議(7月5日開催)を受け、計画の構成を「標準となる構成」(『史跡等・重要文化的景観マネジメント支援事業報告書』所収)、及び文化庁の指導に基づき変更した。計画の骨子となる「基本方針」は、第5章で、大きく4つの基本方針を定めた。

委員： 時代区分で、「現代」の前の「離宮時代後」は、表現が消極的な印象を受ける。検討WGで再考できないか。

委員： 京都市への移管以降、その歴史的位置付けを確認することが必要だ。

座長： 検討WGで意思疎通を図っていく。

委員： 18頁「第4章 本質的価値」にある「江戸時代の最高水準」とはどういうものか。城の縄張りが傾いていることはその一つだ。西氏によれば縄張りに磁石を使ったとされるが、理由は明確か。

事務局： 西氏が説くように、古来に整備された条里制の上に、磁北を利用した縄張りを敷くのは、大きな意味があったに違いないと考えている。キリシタン系の天文学が導入された可能性もあるとされ、当時、最新の技術を採用したことは疑いない。ただし、本格的に研究されていない。

座長： 学術研究も踏まえていけるとよい。

委員： 何か建造物よりの印象を受ける。金具等にも建造物の付属物以上の価値を加えていく必要はないか。

事務局： 修理工事では、年代差のある様々な種類形状の鋳金具が確認された。当初材、後補材を含め、年代的評価について検討を進めている段階である。

座長： これらの議論は、第2章「史跡の概要」を充実させる部分だ。可能な限りいれられるとよい。

事務局： 今後、調査研究機能の強化を図るなかで、検討したい。

委員： 入城料の高騰が気になる。何回も行きにくい。若手研究者の二条城への無関心につながらないか。大学院生への配慮をお願いしたいものだ。

委員： 「保存活用計画(建造物)」で、二条城を研究拠点にする

閉 会	ことを記した。若手研究者のために入場料を考えることは やっていただきたい。 事務局： 年間約４億円を見込む修理費のためだが、重要な問題だ と認識する。大学キャンパスパートナー制度等も用意して いるので是非利用いただきたい。収益だけでなく、多くの 方に観てもらふことは大切にしたい。 座長： では、以上で閉会とする。 (委員会終了)
------------	---